

令和6年度 厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
総括研究報告書

高次脳機能障害の診療に係る実態把握と課題の検討のための研究

研究代表者 今橋 久美子 国立障害者リハビリテーションセンター研究所 室長

研究要旨

高次脳機能障害の適切な診療に結びつける上で課題となっている事項を明らかにすることを目的として後方視的調査を開始し、30 機関から 532 ケースのデータを得た。次年度にかけて引き続きデータ収集を行う。

研究分担者

浦上 裕子 国立障害者リハビリテーションセンター
立石 博章 同上（関東甲信越担当）
向野 雅彦 北海道大学（北海道担当）
藤盛 寿一 東北医科薬科大学（東北担当）
渡邊 修 東京都立大学大学院（東京担当）
間瀬 光人 名古屋市立大学（東海担当）
小林 康孝 福井医療大学（北陸担当）
土岐 明子 大阪急性期・総合医療センター（近畿担当）
平岡 崇 川崎医科大学（中国担当）
高木 康志 徳島大学（四国担当）
佐伯 覚 産業医科大学（九州・沖縄担当）

研究協力者

玉川 侑那 北海道大学病院
目黒 祐子 東北医科薬科大学病院
稲垣 亜紀 名古屋市総合リハビリテーションセンター
長野 友里 同上
佐野 恭子 同上
中島 裕也 福井医療大学
八木 真美 川崎医科大学附属病院

原 慶次郎 徳島大学病院
蜂須賀明子 産業医科大学
堀 諒子 同上
尾崎 文 同上
蟻川 麻紀 産業医科大学病院

A. 研究目的

高次脳機能障害は、しばしば外傷性脳損傷や脳血管障害等に伴い発症することがあるが、医療機関等における認知が十分ではないために早期の診断や治療につながっていない可能性や、診断が見過ごされている可能性が指摘されている。また、高次脳機能障害の診断までに要する期間や、現状において高次脳機能障害の診断を行っている医療機関及び診療科等など、その実態は明らかにされていない。

そこで本研究は、現在高次脳機能障害の診断を受けている人を後方視的に調査し、実態を把握し、適切な診断に結びつける上で課題となっている事項を明らかにすることを目的とする。

B. 研究方法

高次脳機能障害支援拠点機関等（約 120

か所)を対象に質問紙調査を行う。受診/利用者のうち高次脳機能障害と診断されている人について、年齢、性別、原因傷病、診断までの期間、診断した医療機関(診療科)、最初に相談をした場所、障害者手帳取得までの期間、診断後の診療状況等を、専門職(支援コーディネーター)等が回答する(表1)。データ収集にあたり、全都道府県を10ブロックに分け、研究分担者が各担当ブロックのとりまとめを行う。

表1 調査項目

生年・性別
高次脳機能障害の原因傷病・発症(受傷)年月
急性期病院での状況
発症(受傷)後に治療を受けた病院の種類
回復期病院退院時における支援機関や相談先の情報提供
発症(受傷)後～診断までの間に相談した機関
高次脳機能障害の診断を受けた病院・診療科(A)
(A)初診日・どのように知ったか・受診したきっかけ
(A)で診断を受けた後に利用したサービス
診断後最初に相談した機関(B)に初めて相談した日
障害者手帳取得状況
現在の状況
現在の課題・それをどこがサポートしてきたか
発症(受傷)から(A)の初診日までの期

間(年)
(A)を受診するまでに時間がかかったことによる弊害
発症(受傷)から(B)の初回相談日までの期間(年)
支援が途絶えた時期
支援開始が遅れた理由

C. 結果

後方視的調査の実施について、研究代表機関にて研究倫理審査の承認を受けた。研究分担者が各所属機関での承認が下り次第、順次調査を開始し、30機関から532ケースのデータを得た。引き続きデータ収集を行う。

D. 考察

次年度にかけて収集したデータを分析し、発症から社会復帰までの過程において、どのタイミングでどのようなシステムあるいは介入があれば、サポートの切れ目なく円滑に社会に復帰できるようになるのかを明らかにする。その知見に基づき、発症→診断評価→リハビリテーション→社会復帰までの標準パスを作成する。また体制構築に注力すべき対象を明確にするとともに、診断・評価・リハビリテーション・生活支援等が可能な社会資源等を確保・明確化し、地域ごとにリストアップする。さらに、それらの情報を高次脳機能障害の支援に関連するWebサイト等にて公開する予定である。

E. 結論

高次脳機能障害の適切な診療に結びつける上で課題となっている事項を明らかにすることを目的として、後方視的調査を開始

し、30機関から532ケースのデータを得た。
次年度にかけて引き続きデータ収集を行う。

F. 研究発表

1. 論文発表

1. 渡邊 修. 高次脳機能障害者を地域で支える 地域のネットワークと家族支援. 総合リハ, 52, 891-897, 2024
2. 渡邊 修. 高次脳機能障害者に対する地域リハビリテーション医療. 言語聴覚研究, 21, 441-452, 2024
3. 渡邊 修. 頭部外傷による高次脳機能障害の評価と社会復帰における課題ー医療の立場からー. 賠償科学, 52, 17-23, 2024
4. 杉本香苗, 伊藤英明, 佐伯覚. 脳卒中生活期ーQOL向上にむけて. 就労・復職, 総合リハ, 53(2), 155-160, 2025
5. 佐伯覚. 外傷性脳損傷の高次脳機能障害, 日本賠償科学会雑誌, 52, 6-10, 2024
6. 加藤徳明, 村上美紀, 佐伯覚. 脳卒中の合併症と自動車運転再開 ー半盲患者への対応ー. Jpn J Rehabil Med, 61(8), 736-742, 2024
7. 中島裕也, 川端香, 下川幸蔵, 佐藤万美子, 小林康孝. 視覚認知障害が移動能力に及ぼす影響とその支援についての新知見. 作業療法, 43(2), 254-263, 2024
8. 川端香, 中島裕也, 藤田和樹, 佐藤万美子, 林幸司, 小林康孝. 高齢ドライバーに対する危険予知トレーニングの試み. 日本安全運転医療学会誌, 4(1), 48-60, 2024
9. 藤田和樹, 小林康孝, 一杉 正仁. 自動車運転時のペダル踏み間違いに関する運動生理学的検討. 日本交通科学学会誌, 24(1), 3-13, 2024
10. 曾根 大地, 品川 俊一郎, 藤盛 寿一, 高尾 昌樹, 兼本 浩祐. 「精神神経医学」を再考する 精神医学と神経医学のボーダーランド. 精神神経学雑誌, 126, 577-588, 2024
11. 根井 道子, 及川 寛未, 阿部 美和子, 鳥居 みえ, 中村 正史, 藤盛 寿一, 半田 厚子, 中島 一郎. 質問表を利用した多発性硬化症患者への面談介入によるQOL変化の分析(第1報). 臨床神経学, 64, S433, 2024
12. 新野 正明, 福元 尚子, 宮崎 雄生, 三條 伸夫, 大橋 高志, 竹内 英之, 藤盛 寿一, 奥野 龍禎, 深浦 彦彰, 清水 優子, 高橋 恵里, 三船 恒裕. 日本人多発性硬化症患者における認知機能とQOL, 疲労, 抑うつ の縦断的解析. 臨床神経学, 64, S236, 2024
13. 横手 裕明, 宮崎 雄生, 藤盛 寿一, 融 衆太, 三浦 義治, 新野 正明, 中島 一郎, 西田 陽一郎, 横田 隆徳. MS 【WS3】日本人多発性硬化症患者におけるslowly expanding lesionと疾患活動性・脳萎縮進行の関連性. 神経免疫学, 29, 222, 2024
14. 西原 秀昭, 松尾 欣哉, Fujisawa Miwako, Engelhardt Britta, 宮崎 雄生, 新野 正明, 藤盛 寿一, 中島 一郎, 中森 雅之. 血液脳関門破綻が多発性硬化症の臨床病型に与える影響の解析. 神経免疫学, 29, 171, 2024
15. Yuya Nakajima, Nobuhiro Takahashi, Kaori Kawabata, Kazuki Fujita, Kaikuichi Shiomi, Mamiko Sato, Naoto Omata, Yasutaka Kobayashi. Charact

- eristics of Visual Cognition in Patients with Anoxic Encephalopathy: An Eye-tracking Study. *Progress in Rehabilitation Medicine*, 9, 2024
16. Kazuhiro Okamoto, Kengo Hoyano, Yoshitomo Saiki, Tomomi Nomura, Keisuke Irie, Naoya Obama, Narihiro Kodama, Yasutaka Kobayashi. Predictive brain activity related to auditory information is associated with performance in speech comprehension tasks in noisy environments. *Frontiers in Human Neuroscience*, 18, 2024
 17. Kaori Kawabata, Yuya Nakajima, Kazuki Fujita, Mamiko Sato, Koji Hayashi, Yasutaka Kobayashi. Pilot Study on Gaze Characteristics of Older Drivers While Watching Driving Movies. *Geriatrics*, 9(5), 132, 2024
 18. Nobuhiro Takahashi, Mimpei Kawamura, Mamiko Sato, Yasutaka Kobayashi. A Case of Mirror-Image Crossed Thalamic Aphasia With Jargon Agraphia. *Cureus*, 16(5), 2024
 19. Akaishi T, Misu T, Takahashi T, Fujihara K, Fujimori J, Nakashima I, et al. Stochastic models for the onset and disease course of multiple sclerosis. *Clin Neurol Neurosurg*, 239, 108224, 2024
 20. Akaishi T, Fujimori J, Yokote H, Nakashima I. Continuous diffuse brain atrophy independent of relapse as a hallmark of multiple sclerosis beginning from relapsing-remitting stage. *Clin Neurol Neurosurg*, 242, 108342, 2024
 21. Yokote H, Miyazaki Y, Fujimori J, Nishida Y, Toru S, Niino M, et al. Characterization of Japanese multiple sclerosis patients with progression independent of relapse activity: A 2-year multicenter cohort study. *J Neuroimmunol*, 394, 578407, 2024
 22. Yokote H, Miyazaki Y, Fujimori J, Nishida Y, Toru S, Niino M, et al. Slowly expanding lesions are associated with disease activity and gray matter loss in relapse-onset multiple sclerosis. *J Neuroimaging*, 34, 758, 2024
 23. Muryoi A, Nei M, Fujimori J, Nakashima I. Clinical value of the Japanese version of patient-reported multiple sclerosis neuropsychological screening questionnaire. *Clinical and Experimental Neuroimmunology*. n/a. 2025
 24. Fujimori J, Nei M, Nakashima I. Quality of life in patients with multiple sclerosis. *Multiple Sclerosis Journal*, 30, 728, 2024
 25. Nishihara H, Matsuo K, Fujisawa M, Engelhardt B, Miyazaki Y, Niino M, Fujimori J, Nakashima I, Nakamori M. Analyzing the Impact of Blood-Brain Barrier Dysfunction on Clinical Phenotypes in Multiple Sclerosis. *Multiple Sclerosis Journal*, 30, 1149, 2024

26. Umezawa S, Matsumoto Y, Tatewaki Y, Sakamoto N, Yamamoto N, Yamazaki N, Namatame C, Ono H, Kaneko K, Takai Y, Kuroda H, Fujihara K, Fujimori J, Misu T, Taki Y, Aoki M. Time-series analysis of information processing speed indicates white matter integrity changes in patients with multiple sclerosis. Multiple Sclerosis Journal, 30, 931-2, 2024

2. 学会発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

なし